

大麦の栽培基準

(品種 ファイバースノウ)

月	9月		10月		11月		12月		1月	
	旬	中	下	上	中	下	上	中	下	上

土づくり・排水対策 / 播種時期 / 分けつ期 / 積雪期間

苗立ちの安定化 / 茎数の確保 / 越冬前の生育確保

大麦350kgどり（収量構成要素）

- ㎡当り穂数：450本（苗立数150本×1株穂数3本）
- 1穂収量 1.04g

品質目標

- 容積重：690g/ℓ以上
- 細麦率：2.2mm（篩）下に2.0%以下
- 白度：43以上
- 硝子率：40%以下

（排水対策）

- ・稲刈り後、早急に縁縁排水溝と基幹排水溝を設置する。
- ・サブソイラ等による心土破碎を行う。

（栽培のポイント）

- ・排水対策の徹底
- ・土づくりの実践と的確な基肥の施用
- ・計画的な播種
- ・除草剤の使用による雑草防除
- ・赤かび病等の適期防除
- ・適正な収穫と乾燥調整

月	2月		3月		4月		5月		6月	
	旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下

幼穂形成期 / 最高莖数期 / 止葉展開期（出穂11日前） / 出穂開花期 / 成熟期

幼穂形成期 2月下旬頃 / 穂揃期 4月下旬頃 / 成熟期 6月上旬頃

穂数確保 / 登熟向上

（赤かび病防除）

- ・農産物検査規格における混入限度は0.0%

③防除（10a当たり）

回数	時期	薬剤名	施用量
1回目	穂揃期	トップジンM粉剤DL	4kg
		トップジンM水和剤	1000倍150ℓ
		トップジンMゾル	空散8倍0.8ℓ
2回目	1回目から7日後	ワークアップ粉剤DL	3kg
		ワークアップフロアブル	2000倍150ℓ 空散16倍0.8ℓ

（子実水分）

40%までは1日当たり1.6%程度低下し、40%以下では1日当たり3.6%程度の減少。

排水溝の手直し（降雪前・生育期間中随時実施）

⑦年内追肥（分施）

時期	ドリル播き*	表面散播
9月26日～9月30日	6.0kg	6.5kg
10月上旬	6.5kg	7.0kg
10月中旬	8.5kg	9.0kg

※播種深度3cm程度

⑥播種後除草剤（10a当たり）

薬剤名	使用時期	使用量
リベレーターフロアブル	雑草発生前～	薬剤60～80ml +水100ℓ
リベレーターG（粒剤）	イネ科雑草1葉期まで	4～5kg

③種子消毒

時期	品名	使用量
は種前	ベンレートT水和剤20	乾燥種子重量の0.5%

②土づくり

苦土石灰 100～200kg/10a
有機物資材 堆肥 1～2t/10a
発酵鶏糞 100～200kg/10a

④基肥（分施）

基肥30号 33～40kg/10a
エコ大麦44号 45～50kg/10a

⑦年内追肥（分施）

硫安 20kg/10a ※必ず施用
12月上旬の生育量が不足している場合 硫安 10kg以内/10a

④耕耘・施肥・播種の一連作業は、好天日に一気に進行
播種適期は10月上旬。遅くとも10月中旬までにまき終える。

※排水の悪い場合は畦幅を狭くする。 ※溝は必ず深く掘り下げた排水口に連結する。

排水溝の手直し（融雪水の排水）

⑦消雪後の追肥（分施）

硫安 15～20kg/10a ※生育量に応じて

⑦追肥（基肥一発） ※3月中旬頃

硫安 0～10kg/10a ※過剰な追肥は硝子率を高めるので生育量に応じて

⑦止葉展開期の追肥（分施）

硫安 10kg以内/10a

⑧赤かび病1回目防除（穂揃期）（7日後）

⑧赤かび病2回目防除

⑨収穫・乾燥・調製

※子実水分30%以下を目安に刈取り開始。
・生麦は、4時間以上堆積しない。
・毎時乾減率1.0%以内、乾燥水分は13%未満に仕上げましょう
・カラスノエンドウ等の雑草種子や異物混入防止。

葉色	予想穂数（㎡当たり）	施肥量（10a当たり）
5未満	500本未満	10kg
5以上	500本以上	5～10kg
5以上	500本未満	5kg
5以上	500本以上	追肥しない

大麥の乾燥・調製は、是非農協の施設をご利用ください。

栽培管理

一般作物編